



2020年9月14日

株式会社立花商店 生田 渉

(新) 週刊カカオニュース 21号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。

1. ガーナ、20/21 新シーズンのカカオ買取価格は前年の 21%引き上げの予定(9/13)

ガーナは、2020-21 収穫のカカオの国際販売価格から新しく 1 トン当たり、400 米ドルの LID (LIVING INCOME DIFFERENTIAL) プレミアムを導入し、10 月からスタートするカカオ生産者からのカカオ買取価格を 21%引き上げることが規制当局に近い情報ソースが秘密裏に公開した。

世界第 2 位のカカオ生産国であるガーナは、2020 年の 10 月 1 日から始まり、2021 年 9 月まで続くカカオの収穫シーズンに、64 キロバッグあたり 625 ガーナセディ (= \$ 108)、または 1 トンあたり 10,000 ガーナセディ (= \$1,728) でカカオを全国の生産者から統一価格で買い取るとなる。昨年比 21%という大きな上げ幅には聞こえるが、前述の LID のトン当たり 400 米ドルをそのまま加味すると、今年の 9 月 30 日までの今シーズンの 1 袋あたりの価格 515 セディ、1 トンあたり 8,240 セディであったので、理論値としては 1 袋あたり $515 + 148 = 663$ セディ、1 トンあたりでは、 $8240 + 2314 = 10554$ セディとなるのが正しいはずである。

ガーナとコートジボワールは、昨年 7 月に LID 制度を使って、カカオ生産者へのへの支払額を引き上げると発表した。LID のプレミアムが先物取引でヘッジしにくいいため、価格設定メカニズムはトレーダーからさまざまな反応を受けた経緯もあった。とはいえ、ガーナの推定 800,000 人のカカオ生産者への買取価格の上昇は、今までにない大きなインパクトがあり、現政権、現大統領を更に後押しするかもしれない、12 月での大統領選挙では現職のナナアクフォアドが再選の可能性が高まっている。彼は前大統領であり、大統領選挙のライバルである野党候補のジョン・ドラマニ・マハマに対抗するアピールをしている。

2. コートジボワール、生産者買取価格を 21%引き上げる計画 (9/11)

ローター通信等、コートジボワールの情報筋によると、出所は不明であるが、コートジボワールは 2020-21 のカカオシーズンにおいて、固定の生産者出荷価格を 1 キロ当たり前年の 825CFA (≈ 1.43 米ドル) から 21%増の 1,000 CFA (≈ 1.74 米ドル) に引き上げる計画であるようだ。

3. コートジボワール、2020 年末までにカカオの年間生産量が 8%減少(9/12)

世界最大のカカオ生産国であるコートジボワールの規制当局、Conseil Cafe-Cacao の発表した文書によると 2019/2020 年年度シーズンは、2018/2019 年の前シーズンの 224 万トンと比較して、減少し 205 万トン程度に着地するようだ。同組織によれば、同国は、2020-2021 年には 210 万トン、2021-2022 年には 202 万トンの年間生産を見込んでる。

4. カカオ&コーヒー開発基金がカメルーンココアプロジェクトに 4500 万米ドルを投資(9/10)

カメルーン-のカカオ&コーヒー開発基金（通称、FODECC）は木曜日にカメルーンのカカオ生産支援、開発するプロジェクトに 250 億 CFA フラン（約 4500 万ドル）を投資すると発表しました。

このプロジェクトは、5 年間で 8900 万本の認証済みハイブリッドカカオ苗を農家に提供し、141 万 2,250 ヘクタールのカカオ農地の再生、33,000 ヘクタールの新しいカカオ農園を創出することを目的としています。また、このプロジェクトでは、6,000 人の若いカカオ生産者の新規雇用、12,000 人の生産者への農法訓練をすることを計画していると FODECC は説明した。今回のプロジェクトでの計画目標によれば、FODECC はカメルーンの年間カカオ収穫量を品質のよい Grade 1 にて、年間 10 万トン程度増やすとしている。

5. 2019-2020 シーズン、オランダがカメルーン全体のカカオの 62.3%を輸入(9/9)

西アフリカ連合諸国のココアとコーヒー委員会の発表によると、カメルーンから輸出された 2019/20 年産のカカオ豆の総輸出量の 62.3%はオランダに輸出したとのこと。次いで、マレーシアが 9.8%を輸入したが、昨シーズンの 2 番目の輸入国であるインドネシアは今シーズンは、8.6%で第 3 位であった。

6. ファンド勢のロンドンカカオ先物の買い越し、過去 12 週で最大に (9/12)

ロンドンカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋 (Managed Money) が今週、純買いポジションを 10,903 ロット増やし、合計で 14,963 ロットとなり買い越しが一層進んだことが、ICE 欧州先物取引所が発表しているデータから判明した。

- 純買いポジションの数量 14,963 は過去 12 週で最も強気（最も多い）
- 買いポジションの総量は 9 月 8 日までで前週より 5,535 ロット増加して、22,778 ロットとなった。買いポジションの総数量でも、過去 12 週で最も高い水準になっている
- 売りポジションの総量は 9 月 8 日までで、前週より 5,368 ロット減少して、7,815 ロットとなった。売りポジションの総量は、過去 12 週間で最小の数値となっている。

7. ニューヨークの買い越しロットは過去 6 か月で最大の数値に(9/12)

ニューヨークカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋(Managed Money)の買い越しポジションが増加している。純買いポジション (=Net long position) が今週 **2,134** ロット増えて、**35,600** ロットに増加した。

- 純買いポジションは、過去 6 か月で一番強気水準 (=買い越しが多い)
- 買いポジションの総量は 9 月 8 日までで前週より 2,912 ロット増加して、61,863 ロットとなった。買いポジションの総数量では、過去 6 か月で一番高い水準になってきている。
- 売りポジションの総量は 8 月 25 日までで前週より 778 ロット増加して、26,263 ロットとなった。

8. 【コラム】強まるドル先安観、投資家には朗報か (9/13)

(WSJの人気コラム「ハード・オン・ザ・ストリート」より)

「強いドル」の時代は終わりを迎える公算が大きい。米国内の投資家にとっては、これは必ずしも悪いことではない。米株式市場には足元、ドル安トレンドが追い風となるとみられる銘柄について、魅力的なエントリーポイントが存在する。

ドルはここ数カ月、下落基調が続いている。背景には、米経済が他の先進国よりも新型コロナウイルス危機でより大きな打撃を受けていることが鮮明になったことがある。これに加え、危機克服に向けて前例のない財政出動・金融緩和策が打ち出されたこともドル安を後押しした。主要16通貨のバスケットに対するドルの価値を示すウォール・ストリート・ジャーナル (WSJ) ドル指数は3月下旬以降およそ9%、5月半ば以降では6%それぞれ下落している。

ドルがこの先も一段安になると予想する理由は多々ある。米連邦準備制度理事会 (FRB) が先月公表した金融政策枠組みの見直しは、その大きな要因の1つだ。FRBは物価が下振れした期間を埋め合わせるため、2%を上回るインフレ率をより長い期間にわたり許容するとし、失業率が低下しても、予防的な利上げで対応しない姿勢を打ち出した。

これにより、長期的には確実にドル安が進みそうだ。TS ロンバードのマクロストラテジスト、オリバー・ブレナン氏は最近のノートで、FRBの新たな政策枠組みにより、従来の米経済成長と為替相場の関係は途切れるだろうと指摘した。つまり、投資家は米経済に関する好材料が出て、FRBの金融引き締めを想定して競ってドル買いに走り、相場を押し上げることはしなくなるという。

だが、失望しないでほしい。ゴールドマン・サックスのストラテジストによると、ドル安の環境では、株価のパフォーマンスは改善する傾向がある。同社が1980年以降のS&P500種指数の動向を分析したところ、ドルが貿易加重ベースで少なくとも1.25%下落した月には、株価が平均で2.6%上昇したことが分かった。一方、ドルが同程度値上がりした月では、株価の上昇率は0.7%にとどまったという。

ドル安は主に、海外で稼ぐ企業に恩恵を与える。為替差益でドル換算の売上高が増えるためだ。また、相対的なコスト基盤が低くなるため、海外のライバル企業に対する米企業の競争力も向上する。

ゴールドマンの分析によると、ドルが急落した月には、テクノロジーやエネルギーといった海外へのエクスポージャーが大きいセクターがアウトパフォームしており、平均でそれぞれ3.3%、2.6%値上がりした。一方、一般消費財など国内中心のセクターは見劣りし、上昇率が平均で0.8%にとどまった。

セクター内でも、個別株の差は大きい。1980年以降、ドルが売られた月では、セクター中立のゴールドマンの株式バスケットでは、海外売上高の比率の大きいバスケットが、国内売上高が多いバスケットを1.4ポイントアウトパフォームした。

例えば、生活必需品セクター内で見えた場合、これは飲料大手コカ・コーラ (昨年度売上高に占める北米以外の割合が68%)の方が、同業ペプシコ (同39%)よりもドル安の恩恵を受けるということになる。菓子・スナック業界では、売上高全体に占める北米以外の割合がモンデリーズ・インターナショナルでは73%、国内中心のハーシーは11%となっている。日用品業界では、グローバルに事業を展開するコルゲート・パルモリーブは北米以外の売上高の割合が78%となる一方、クロックスは米国内の売上高が84%を占める。

興味深いことに、海外事業の占める割合が大きい企業の一角は足元、株価がアンダーパフォームしている。新型コロナウイルスのパンデミック（世界的な大流行）を受けた米消費者の「買いだめ」による恩恵をあまり受けなかったことが一因だ。コカコーラは年初来、約9%下落しているのに対し、モンデリーズは約4%値上がり、S&P500種指数とほぼ足並みをほぼそろえている。コルゲートは11%高だが、40%上昇しているクロロックスに比べると大きく水をあけられている。

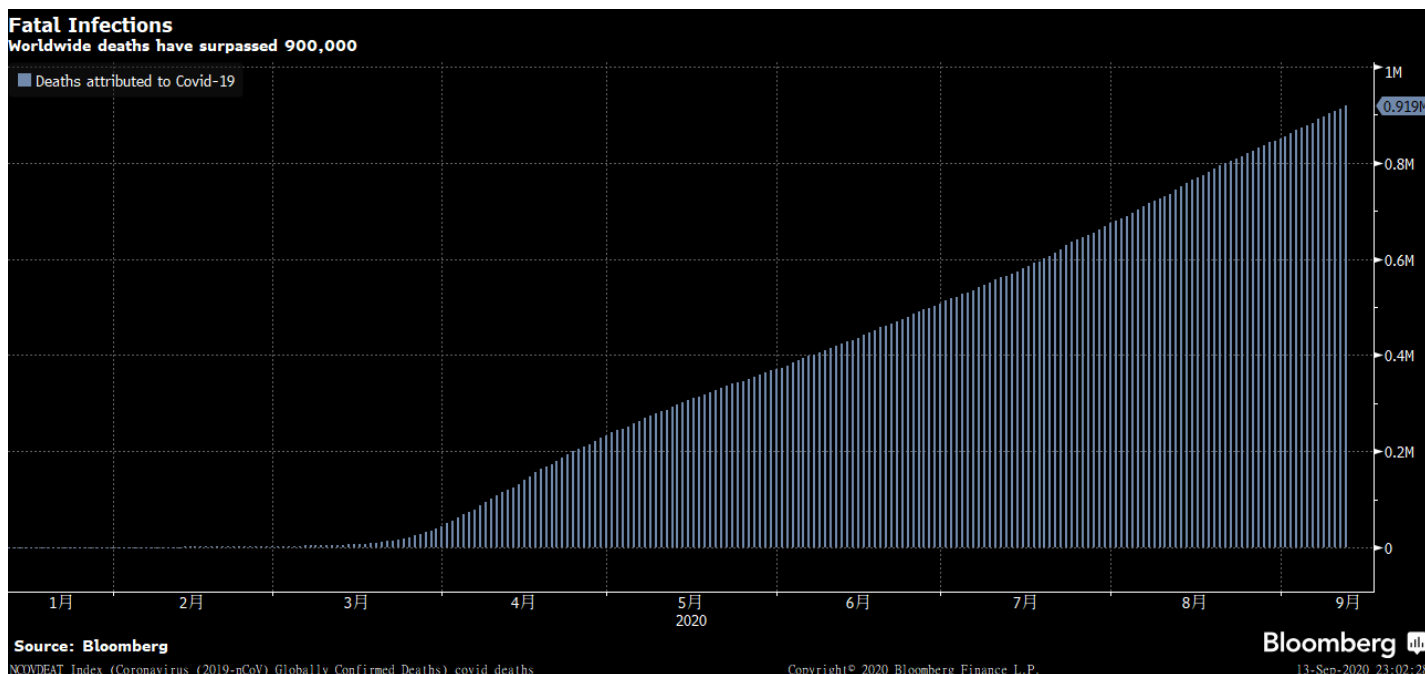
ドルヘッジのために暗号資産（仮想通貨）ビットコインなど「エキゾチック」な取引に手を出したり、金相場に殺到したりする必要はない。ドル安で大きな恩恵を受けるであろう米優良企業の株に資金を投じる機会があふれている。

9. 【新型コロナ UPDATE】米の死者数が大幅増加、アストラゼネカ臨床試験再開(9/13)

米国での新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連の死者は11日に1215人増加し、1日としては8月26日以来最多となった。ジョンズ・ホプキンス大学とブルームバーグの集計データで明らかになった。新たな感染者数は0.7%増と、過去1週間の平均である0.6%を上回った。

英製薬会社アストラゼネカとオックスフォード大学が共同で開発している新型コロナワクチンの臨床試験が英国で再開された。試験に参加した1人に疾患が生じて一時停止となっていたが、同大学の声明によれば、英当局が独立した調査結果を受けて再開を勧告した。

メキシコでは新たに5674人の感染が確認され、累計で66万3973人となった。また新たに421人が死亡し、累計では世界で4番目となる7万604人に上った。



フランスでは12日、1万人を超える新規感染者が報告された。1日当たりとしてはロックダウン（都市封鎖）が終了した5月以来の多さとなった。保健当局のデータによると、同日までの24時間に報告された新規感染者は1万561人。過去1週間の移動平均は8029人で、この約4週間は着実に増加傾向をたどっている。

ブラジルでは新規感染者が0.8%増と、過去1週間平均の0.7%を下回った。保健省のウェブサイトに掲載されたデータが示した。死者数は814人増えて累計13万1210人となった。これは米国に次いで世界で2番目の多さだ。



*9月6日、リオデジャネイロのイパネマビーチでくつろぐ人々

オーストラリアの州で最も多い感染者が確認されているビクトリア州では、新規感染者数が41人と前日の37人から若干上昇した。

世界の新型コロナ感染者は2860万人を突破、死者数は91万9000人を上回った。

週刊カカオニュースの配信の削除、ご依頼については、下記アドレスまでご連絡願います。

株式会社 立花商店 生田 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp